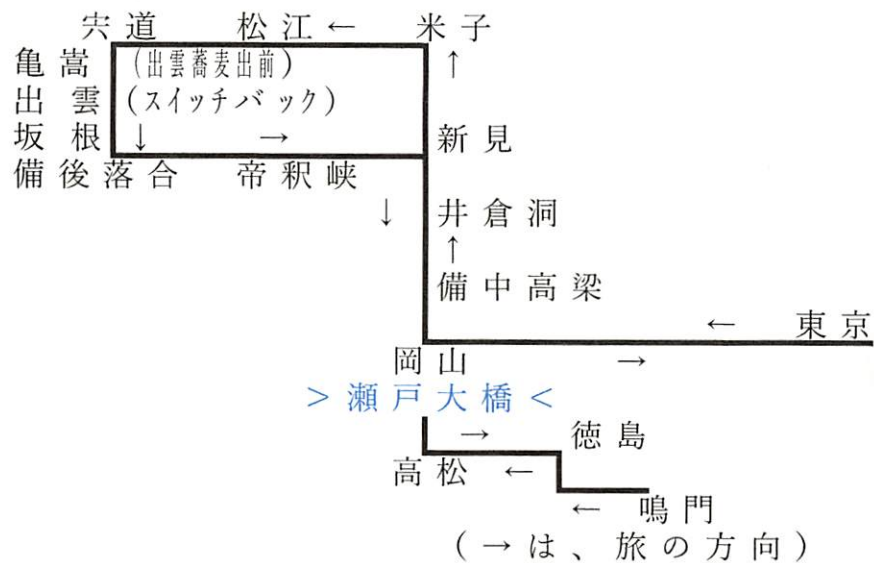


中国・四国

あちら、こちら

(第4版)

* 2023, 7, 2 (日) ~ 6 (木)



目覚めれば
青嶺迫りし
寝台車
青嶺迫る
寝台列車
朝運ぶ



青嶺行く

スイッチバックバグ

三度して



* スイッチバックの線路。写真中央の白い標識には、30の数字がある。千m水平に進むと30m下がるの意味で、一番勾配がきつい区間だ。

山滴る

ホームへ出前

出雲蕎麦

目には青嶺

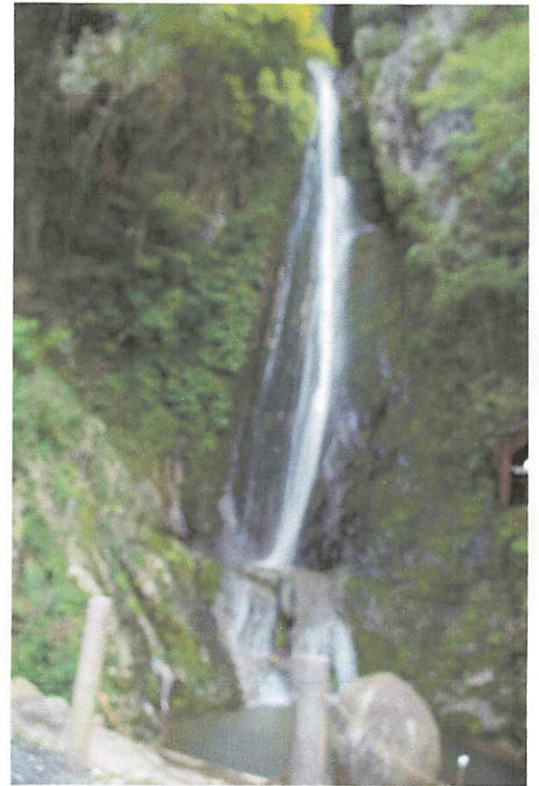
出雲の旅は

舌に蕎麦



* 木次線亀高では、予約すると、ホームまで出雲蕎麦を出前してくれます。

幽谷に
滝一条の
絹を掛け



螢火や

枝の間そら宙に

消へてまた

螢火や

命は子へと

短くも



← なが見せ？のす。
さがまか螢で
小点えん光

渦と渦

大きく一つ

夏の潮

渦二つ

一つになりし

夏の潮



ベンガラの

格子の家並み

赤とんぼ



(備中高梁市、ベンガラの街)

<旅の終わりに>

今回の旅のエピソードを紹介します。

【第1話】

特急サンライズ出雲でシャワー券を
買おうとしたら売り切れ。後ろから韓
国風の青年が、「どうぞ。」とカードを
くれた。
シャワーでさっぱりし、缶ビールを
飲んで、夢路についた。
カードは、1枚千円もする。青年の好
意に感謝している。

【第2話】

* 宿の人の好意 (帝釈峽 = たいしゃくきょう) ①
この宿には、蛍が見たいと言って
申し込んだ。後日宿から、地域が主催
する蛍ツアーが1週間延びたとの連絡
が入った。しかし、蛍がいる所へは宿
の人が案内してくれるとの事で、旅行
は予定通り決行!
当夜、宿の人は源氏が蛍が棲息してい
る所へ案内してくれ、元気がよく、
高い木の枝や川面を飛び回っている。肉
眼で蛍火が見えても、カメラは無理だ。
所へ案内してくれ、宿の人が姫蛍がいる
ので、高い所は飛ばせません。との事。
何とかが映したのが、掲載の写真だ。
私の気持ちを察してくれた宿の人に感
謝している。

* 宿の人の好意 ②

帝釈峽がある駅へ宿の人が車で迎えに
来てくれた。帝釈峽の見所の一つの
「御橋(おんばし)は、宿から歩いて行けま
すか?」と聞いたら、「それなら、御
橋近くの駐車場へ行くから、そこから
歩いて行きなさい。」と言われた。駐
車場から先へは車が入れないのだ。し
かし、駐車場から御橋迄、徒歩で往復

すると、約40分かかると、車で待っていてくれた。宿の人は私が戻

【第3話】

井倉洞がある井倉駅は、乗降客が少な
く、ふだん事前に予約しておい。そこで
クシタクシ(駅長?)が私に「何処まで
女性くんか?」と聞いてきた。私が
「初めて井倉溪谷に行き、滝の写真を
撮ってタクシーを捨てて見学し、歩いてこ
この暑さの中で、この荷物は無理よ。」と
言い、更に運転手に向かかって、「運転手
さんもお客さんに、無理だよ。」と話し
相手を変えた。すると運転手は、「それなら
駅員さん、お客さんの荷物を預かってやんな
よ。」と逆襲。駅員は「駅ではお客の荷物は
預かれないけど…」と言いつつ、洗々
荷物を入れてくれた。駅員と運転手の
好意に感謝!

【第4話】

今度のは、鳴門の観潮船の船員からの好
意の話。渦潮をなるべく良いアングルでと、1
等船室を奮発した。客は私一人。船員が
渦潮が良く見える船の位置を案内してく
れた。こうして撮ったのが、掲載の写真
の2葉だ。

【第5話】

高松駅で、「サンライズ瀬戸」の発車
まで時間があるので、案内所でスーパー
銭湯の場所を聞き、市電に一駅乗った。
市電を降りると、2人の女子中学生
(高校生?)が話の最中。私がスーパー
銭湯の道を尋ねると、スマホを取り出し、

地図を見て、「お連れします。」と言ってくれた。

道々、「どちらからいらしたのですか？」と聞かれた時の笑顔がかわいい。

女の子2人だったとはいえ、暗くなってからの道案内の好意に感謝したい。

旅行のトラベルの語源は、「トラブル。」と聞いている。旅に出ると、色々なトラブルに遭うからだ。

しかし、今回の私の旅は、好意の連続だった。その事に感謝しつつ、「サンライズ瀬戸」の車中の人となった。

【第6話】

今度は私自身の話。とは言え、私が他人に親切をした訳ではない。旅先で疑問を持った事だ。井倉洞周辺の岩肌は石灰岩。石灰岩は、海生物を含む岩石だから、井倉洞周辺は太古の時代は海と言えらる。小さな鍾乳洞は帝釈峡にもあった。中国地方で有名な鍾乳洞の秋芳洞は山口県にある。それなら、この石灰岩の地層は、山口県迄続いているのだろうか？そして、マントルやプレートでの働きで、中国山地が陸に隆起したのだろうか？確かに、山口県の瀬戸内海側に、小野田セメントがある。石灰岩を原料と中、地方には、石灰岩層が多いようだ。また、地図を見るときは、鳥取県の大山。他の目に火が冷えた固まった、兵庫の玄武洞。どうして、中国地方は火山が少いのだろうか。今回の旅は、私に地質学的な問い掛けをしなされた。謎を解く、謎が駅まわりの旅」でよ



* 「サンライズ出雲」「サンライズ瀬戸」は2023年現在、JRの定期列車としては、唯一の寝台列車だ。下りは岡山で双方に分離、上りは同じく岡山で併合される。以前の蚕棚式の寝台車に比べると、防音に優れ、プライバシーが保たれ、快適な乗り心地だ。今回の私の旅の「足」となり、「宿」となった。